

# 第1章

## 世田谷区と川場村の交流

川場村を舞台に展開されている交流活動は、健康村施設の開設前から予備活動として始められ、これまで多くの世田谷区民が川場村を訪れてきた。当初は、様々なイベントを通じた交流が中心であったが、やがて区民と村民が自由に行き来し、今では、自主的・自発的な交流も見られるようになってきている。現在の交流事業は、そのような状況や時代の変化に合わせた企画・運営を目指して実施している。

一方、区立小学校の移動教室や千歳台小学校と川場小学校の交流では、子どもたちが都市と農山村の環境の違いや自然の大切さを学び、相互の理解を深める貴重な機会として受け継がれている。

こうした区と村の交流は、「友好の森事業」、「自然エネルギーを通じた連携」、「川場村産木材の活用」など、都市と農山村の特徴を活かしてお互いの政策課題の解決に向けた事業に発展している。



# 1. 交流事業

## 健康村里山自然学校

世田谷区民の「第二のふるさと」づくりを目指し、群馬県川場村と相互協力協定（縁組協定）締結から約40年。都市と農山村の交流は区民と村民の信頼と友情を重ね、その交流は全国的にも高い評価を受けている。特に、縁組協定10周年を記念してスタートした「友好の森事業」は、区民健康村事業を支える川場村の環境を、都市と山村の交流事業の一環として区民と村民が協働して森林を「守り育てること」を基本とし、森林に「学び」「遊び」「憩う」活動から環境問題の新しい取組みのあり方を追求することを目的としている。そして、現在その取組みは両者が共有できる「ふるさとのシンボル」であり、着実に新しい文化を築き上げている。

友好の森の意思を受け継いだ「健康村里山自然学校」は、森林環境税の一部が使われており、地球温暖化防止のみならず国土の保全や水源の涵養等を進めつつ、今後も村内全域を活動のフィールドに、区民と村民の心の交流を図るものである。

### 1 里山塾

#### ① おとなの里山コース

里山の環境保全を通して、村内の遊歩道整備、水車小屋の茅葺きなどにも取り組んでいる。里山を守る活動に加え、川場村内に出向いて地域の方々と共に活動を行い、その地域がどのようにやま（森林）と向き合ってきたのかを、里山づくりを通して学ぶ。各回には季節の果物や食材を用いた、四季に応じた自然を楽しむプログラムを通じて里山の魅力を楽しみながら学び、体験することができる。



#### ② 親子里山体験コース

親子で里山散策や里山の素材を使ったものづくり体験など、季節に合わせたさまざまな自然体験を行い、里山の大切さに触れながら、楽しさを再発見することができる。



### ③専科コース

「さらに深く知りたい」「地域の人のお手伝いがしたい」方を対象に、茅葺きに特化した「茅葺き屋根づくり」や地元村民と協働で友好の森や共有林の整備作業を行う。

※令和5年度より、茅葺き専門のコースを設置予定



### ④こども里山自然学校

世田谷区と川場村の小学5・6年生を対象に、都会ではできない里山自然体験を年2回(夏休みと冬休み)実施。里山を舞台に、農林業体験や川遊びを通して自然の美しさを知り、時には自然の厳しさを学びながら、同世代の子どもたちと共に生活をし、自らの力を試す恰好の場でもある。



### ⑤川場まるごと滞在記

中・高校生の農山村体験活動。この教室では、地域との交流をはじめ、同世代の仲間とさまざまな体験を共有し、同じ時を過ごすことで仲間同士の絆も深まる。農業が盛んな川場村だからこそ、人に学び、自然に触れ、自然を知ること、学校や日常では味わうことのできない感動も生まれる。



## 2 農業塾

### ①農業技術教室(野菜づくり入門コース)

川場村の農業は人と自然との結びつきを大切にすることで、様々な農業スタイルを築き上げてきた。そうした環境から培った洞察力を持ち合わせる魅力的な指導者により、農業技術はもちろんのこと様々な川場流の農業技術を吸収する場でもある。



### ②棚田オーナー

先人の手により斜面上に作られた石積みの水田「棚田」。この古き良き農山村の風景を後世に受け継ぐことを目的としている。

川場村の棚田で、米づくりの基本となる田植えから稲刈りまでを地元農家の方と一緒に進む。また、米づくりを通して川場村の四季を楽しみ、食文化や生活文化にも触れることができる。



### ③手づくりそばの会

川場村の畑を自身で耕し、種まき・収穫・脱穀・そば打ちと全てを体験するそばの会。

最終回には、自分たちが育てたそばを打ち、その味を堪能する。こだわりをもったこの手づくりそばの会は、川場村だからこそできる贅沢な時間である。



#### ④ レンタアップル

春から秋にかけて自分だけのリンゴの木を持てる制度。春には甘い香りに包まれながら花を摘み、秋には手塩にかけたリンゴの収穫を行う。川場村のリンゴ園主との交流から川場村をより一層身近に感じることができる。



#### ⑤ レンタル農園

川場村の畑を活用し、春から秋まで会員がさまざまな野菜づくりを楽しめる。川場村の気候は、多品種の野菜を作るのに大変適した環境であり、各々が自主的に楽しめるのが特徴の農園である。



### 3 その他の事業

#### ①木ごころ塾

最初に木の性質を知ることから始まり、製作では手道具などを使用することにより、より良い木工品をつくるための知恵と技を体験することができる。

講師は地元木工職人の方が担い、初心者の方でも安心して参加でき、達成感と木のぬくもりを感じられる。



#### ②フライフィッシングスクール

初心者からベテランまで、レベルにあわせて講師陣がコーチを行う。鳥獣の毛で水生昆虫に似せた毛ばりを使用し、澄んだ川にしか生息しないイワナやヤマメを相手に渓流釣りにチャレンジするスクールとなっている。



#### ③ふるさとパック

川場村で収穫される新鮮で安心・安全な農産物や、農産加工品を旬の時期に届ける産地直送便。一つひとつ丁寧に作られた手づくりの梅干しや梅漬け、乾燥芋、採れたての良質な農産物が届く。



#### ④川場村農産物出店販売

せたがやふるさと区民まつりやボロ市など、区内で実施される催事等での川場村の農産物の販売を通じて、川場村をより一層身近に感じていただく機会である。



#### ⑤健康村オプションイベント

ビレジ宿泊者を対象としたオプションイベントでは、毎月季節に合わせた様々な企画を実施。

自然散策や収穫体験、手づくり食品など、時間も1～2時間程度の内容で誰でも気軽に楽しめる内容となっており、健康村の交流事業を知ることができる。



## 2. 区と村の連携

### 友好の森事業

「友好の森事業」は、世田谷区と川場村の縁組協定10周年を記念して、新しい交流の礎を築くために、区民と村民が協働して川場村の森を見つめ直すことから始められた。

地元地権者の協力により、なかのビレジ周辺約80haを友好の森として指定した。活動拠点として、世田谷区は宿泊機能をもつ「森のむら」を建設し、川場村は動植物・環境測定調査及びビジターセンター機能をもつ「森の学校」を建設した。

縁組協定以来、多くの区民が川場村の環境や人情に触れて精神的に豊かになってきたが、ただ先人が残してくれた環境を味わうだけでは区民健康村事業は成り立たない。区民村民共通の財産である川場村の環境を守り、育てていかなければ、この良好な環境が将来にわたって続くものではないのである。そして、区民はお客さんとして訪れることに留まらず、ともに汗を流してこの環境を次世代に繋げる努力をすることが、双方向の交流を一層強固にする。

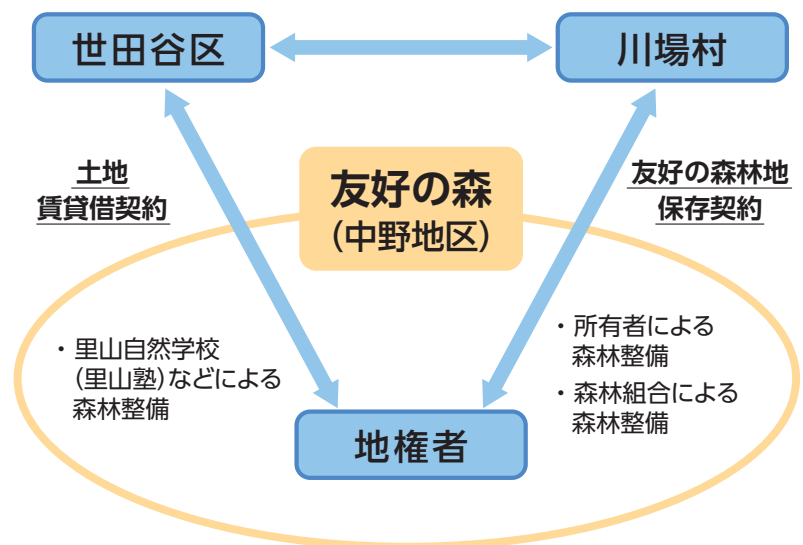
また、美しい村づくりを推進する川場村では、環境保全・育成が大きな課題となっている。この事業の展開を通して、村民の関心と理解を高め、全体的な運動へ発展させるための足がかりとしなくてはならない。村の面積の86%は山林である。区民の“第二のふるさと”と呼ぶにふさわしい環境を守り創り上げていくために、様々な人たちが一歩ずつ着実に歩むことが、この事業の目的である。

こうして1991(平成3)年6月に世田谷区民健康村事業推進会議において、仮称「友好の森」事業計画の骨子が了承され、1992(平成4)年1月30日に世田谷区・川場村縁組協定10周年記念事業「友好の森」建設協定の調印を執り行った。

そこで友好の森事業の目的を達成させるために、「やま(森林)づくり塾」を開塾することとした(健康村里山自然学校の前身)。併せて村と地権者との間に「林地保存契約」を1995(平成7)年4月1日に締結し、そのフィールドを活用して区民・村民・地権者が協働して森林整備と保全活動を行い、ひいては村全体の景観を保全していくことを約束したものである。



#### 区民健康村10周年記念 “友好の森”事業に関する相互協力







川場村のイメージキャラクター  
かわたん

## 川場村の歳時記

### 春 (3月～5月)

春は、田植えやリンゴの花摘み等の農作物の栽培が始まり、各地区の神社では農作物の豊穰を願う春祭りが行われます。

- 3月 溪流釣り解禁
- 4月 虚空蔵まつり、厄除け観音祭り
- 5月 リンゴの花摘み、田植え



### 夏 (6月～8月)

夏は、川場村名産のブルーベリーの収穫体験、トウモロコシやキュウリなど夏野菜の最盛期となります。川場まつりでは、各地区のお神輿が一堂に会し、夏まつりを盛り上げます。

- 6月 鮎釣り解禁、武尊山山開き
- 7月 ブルーベリーの収穫、川場まつり
- 8月 お盆



### 秋 (9月～11月)

9月のブドウやリンゴの収穫から始まり、各地区では稲刈りの最盛期となります。10月は柿、11月はこんにゃくと、秋は収穫一色になります。武尊山をはじめとする山々の紅葉も艶やかです。

- 9月 ブドウ・リンゴの収穫、稲刈り
- 10月 柿の収穫
- 11月 文化祭、こんにゃくの収穫



### 冬 (12月～2月)

冬は、12月に川場スキー場がオープンして賑わいます。2月には養蚕の豊作を祈願した春駒まつり、富士山地区では棚田を活用した竹灯籠が冬の夜空に輝きます。

- 12月 川場スキー場オープン
- 1月 厄除け観音祭り、どんど焼き
- 2月 春駒まつり、冬の竹灯籠まつり



## 移動教室

1986(昭和61)年4月に区民健康村ふじやまビレジとなかのビレジが開村し、同年5月より2泊3日の日程で区立小学校5年生の移動教室を開始した。

川場移動教室では、村の自然や文化に触れながら宿泊を伴った集団活動を行うことにより、主体的・体験的な活動を通じて豊かな人間性を培うことを目的として、村めぐりや登山、里山プログラム、キャンプファイヤー、飯ごう炊さん等を行っている。

年間約6,000人の児童が川場村を訪れており、令和4年11月までの37年間で合計約20万人の児童が川場村を訪れている。

### 実施状況

- 対象** 区立小学校5年生(61校)
- 宿泊場所** ふじやまビレジ なかのビレジ
- 泊数** 2泊3日 ※令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて1泊2日で実施。
- 期間** 5月上旬から11月上旬(2泊3日実施の場合)
- 活動内容** **(1)村巡り**

ふじやま・なかの両ビレジでそれぞれのコースを設けて行われている。

村内を歩くことで村の風景や文化に触れ、りんご農家の方から農作業や村の話も聞くこともある。



#### (2)登山コース

豊かな森林にコースを設定し、森林浴を楽しみながら、多様な自然に目を向け、体感することができる。鉾石山コース(ふじやま)、21世紀の森コース(ふじやま)、雨乞山コース(なかの)、ヒロイド原コース(なかの)がある。



#### (3)川場里山プログラム

「里山入門(森林の役割やCO<sub>2</sub>排出削減等の説明を含む)」、「ナイトハイク」、「コースターづくり」、「ハーバリウム体験」など各小学校の選択により、川場村の特色や魅力を生かしたプログラムを体験している。



### 新型コロナウイルスの影響について

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国の緊急事態宣言を踏まえて、区民健康村開村以来、初めて全校中止となった。

川場村の方の、「世田谷の子どもたちに川場村の思い出を何か届けたい」との気持ちから、移動教室で飲むはずだった「りんごジュース」が川場村から5年生へ届けられ、そのお礼に感謝のメッセージを川場村とりんご農家に届けた。

### 川場移動教室での活動の様子



## 千歳台小学校と川場小学校の姉妹校交流

縁組協定をきっかけとして、1984(昭和59)年3月に千歳台小学校と川場小学校が姉妹校となり、現在も5年生、6年生を中心に交流を行っている。

交流当初は、夏休みに区立三浦健康学園で夏季交流が実施された。平成3年度から千歳台小学校で夏季交流を行い、平成6年度からは千歳台小学校児童の各家庭での民泊を始めて、川場小学校児童と受け入れ家庭との交流も深めてきた。

現在の夏季交流は、川場小学校の6年生が千歳台小学校を訪れ、区内めぐりやゲーム、レクリエーション、水泳教室などを一緒に楽しんで活動している。



冬季交流は当初、千歳台小学校の5年生と6年生が、川場村を訪れてスキー教室を行っていた。平成27年度からは、千歳台小学校と川場小学校の5年生がスキー交流を行っている。

子どもたちのスキーの指導を川場小学校の保護者をはじめとする川場村の皆さんに行っていただくなどして交流が図られている。



区民健康村ふじやま・なかのビレジが開村した昭和61年度から区立の全小学校の川場移動教室が始まった。千歳台小学校と川場小学校の交流は、夏季交流と冬季交流とあわせて、移動教室期間中にも行われ、現在も続いている。

## 自然エネルギーを通じた連携事業

### 「川場村における自然エネルギー活用による発電事業に関する連携・協力協定」締結

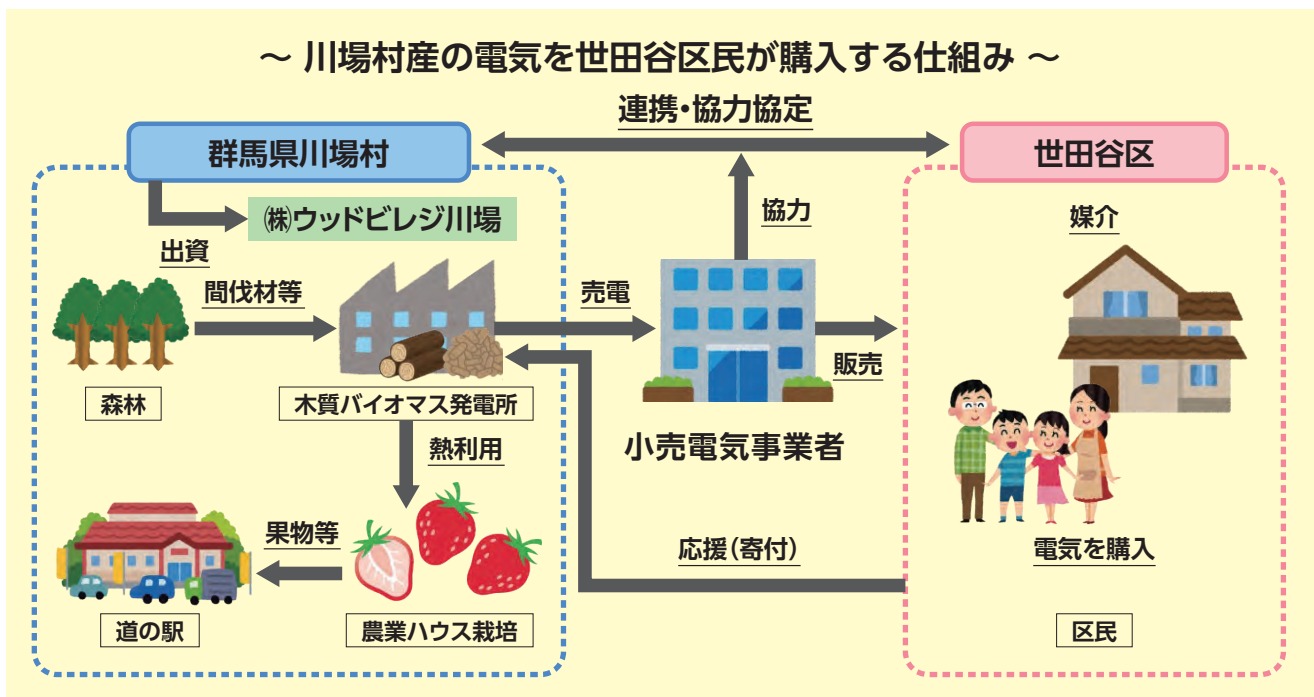
世田谷区では「世田谷区環境基本計画」において、「エネルギーの地産地消と交流自治体等との交流・連携」により、自然エネルギーの活用拡大を目指している。

一方、川場村では、木材コンビナート事業として木質バイオマス発電所の整備に取り組んでいたことから、村で発電した電気を区民および区へ供給する話へと発展し、区としても自然エネルギー活用拡大に向けた好機と捉え、電気供給等の仕組みの構築に向けて2016(平成28)年2月に協定を締結した。また、この取組みは環境省の「環境白書」でも取り上げられた。

### 川場村産電力の世田谷区民への供給開始

2017(平成29)年5月に川場村の木質バイオマス発電所で生み出す電気を、電力小売事業者を通じて区民が購入する仕組みを構築し、約40世帯の区民が購入している。

川場村をはじめとする交流自治体の自然エネルギーを通じた地域間の交流も進めており、電力購入者が電力の生産地を訪れる見学ツアーの実施や、電力を生産する自治体の職員との交流なども行っている。



## 道の駅 川場田園プラザ

むらづくりの基本路線である「農業プラス観光」。その集大成として位置づけ建設されたのが「田園プラザ」です。村の商業、情報、ふれあいの核である施設が道の駅として登録されて26年。常に進化を続け、リピーターが7割を超える道の駅は、令和4年に「じゃらん全国道の駅グランプリ第1位」に選ばれました。それを支えているのは、来訪されるお客様、そして地域の人々です。これからも、「都市と農村の架け橋」であってほしいですね。



田園プラザ園内マップ(2023年1月現在)

